

平成24年度 自己評価計画に対する年度末評価結果

石川県立金沢辰巳丘高等学校

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 学習指導と進路指導の充実を図る。 個に応じた指導による基礎・基本の定着 確かな学力の増進 普通・芸術・外国語の各コースの特性を活かした進路指導の充実	① 年間を通して校内公開授業とし、授業研究を充実させて授業改善を促進する。また、年2回全教科共通のテーマで研究協議会を持ち、協議内容を全職員で共有する。	他の教員の授業を参観した回数が年間 A 7回以上である B 5回以上である C 3回以上である D 2回以下である	C 教職員アンケート A+B 9月 22.7% 2月 73.3%	全ての教科で研究授業が行われた。また、全教科共通のテーマで研究協議会が行われ協議内容が職員会議で報告された。公開授業を年間通して行うことで、いつでも参観が可能となったが、目標である80%には達しなかった。来年度は参観を強化する期間を設け、互見授業の促進に取り組む。
	② 家庭での学習習慣の定着をねらいとする効果的な課題を与え、家庭学習時間を増加させる。	課題の提出率が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C 生徒アンケート 7月 68.7% 2月 70.6%	各教科で、生徒が取り組みやすい課題をこまめに与えるなどの工夫をしているが、家庭学習の習慣を確立できない生徒が増加しており、課題の提出が滞ることが多い。引き続き家庭学習の大切さを理解させながら、学習意欲を喚起するような課題をこまめに与えることに努める。
	③ キャリア教育の充実とともに目標を明確化させ、有意義な高校生活を送るよう教育活動を行う。	本校に入学して良かったと思う生徒の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	C 生徒アンケート 7月 67.5% 2月 68.7%	今年度2年生は夏休み中に全員がインターンシップ等の活動に参加し、社会との関わりの中で自信をつけた。次年度は1年次の年間を通じたキャリア教育を充実させ、社会や自己実現への気づきを与え、その中から達成感や満足感を得るようにしたい。
	④ 個人面談等を効果的に活用し、進路目標の明確な設定を図る。	具体的な進路目標を持っている生徒の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	C 生徒アンケート 7月 69.0% 2月 72.5%	1年生は集団としての落ち着きや正しい学習姿勢の確立に時間がかかり、進路意識の構築までには至らなかった。次年度は新入生合宿などの活用も含め、初期指導の徹底と年間を通じたキャリア教育の充実を努める。
	⑤ 視野を広げるとともに、考える力や表現力を伸ばすため、3年間を見通した小論文指導を行う。	小論文指導に積極的に参加することができたと答える教員の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	D 教職員アンケート 2月 61.3%	今年度3年生の小論文指導は受験大学学部の小論文研究から始まった。1、2年の小論文指導は学年団が中心となって行われた。そのため担当者が限られてしまい、数字が伸びなかった。次年度は3年生の志望理由書の等の指導を全体で分担し、学校全体でスキルアップを図りたい。
学校関係者評価委員会の評価	常に問題意識を持ちながら授業を振り返って反省する機会を設ける取り組みはぜひ継続してほしい。生徒の取り組み結果を分析すると先生方の熱意がまだ伝わりきっていないようだ。キャリア教育は個々の生徒の将来設計に大きく影響を及ぼすものなので是非取り組みを強化してほしい。それによって進路目標の明確化と進路実現が促進されるはずだ。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	学習習慣が確立していない生徒への初期指導を徹底するために、学習についてのオリエンテーションを早期に行い、予習や復習など主体的な学習の大切さを粘り強く指導する。インターンシップの取り組みだけでなく、3年間を見通したキャリア教育を、1学年主任を中心にしたキャリア教育の組織を立ち上げて年間計画を作って、実践する。			
2 基本的な生活習慣や倫理観を確立し、豊かな人間性や社会性を育成する。	① 家庭との連携・協力を図りながら、服装、頭髪、化粧などの身だしなみ指導を全職員で行う。	服装容儀について生徒心得を守っていると答える生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	B 生徒アンケート 7月 88.1% 2月 87.3%	新しい生徒必携に基づいた本校の生活基準について担任を通じて生徒や保護者に繰り返し説明し、協力を依頼した。毎日の遅刻指導や授業評価を行う中で細かな服装容儀指導も行い、全職員で改善に取り組んだ結果が出ている。今後も継続指導する。
	② 全教職員で協力し、遅刻の減少を目指す。	年間の遅刻者の延べ人数が A 600人以下である B 850人以下である C 1000人未満である D 1000人以上である	B 平成24年度最終集計 663件 (昨年は1232件)	遅刻者に対して毎日の奉仕活動、度重なる場合の授業評価や管理職による説諭など様々な対応策を講じ663件にとどまった。この数字はにべル着できなかった者や想定外のバスの遅延による者も含まれる。来年度は600件以下となるよう指導する。

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
遅刻や欠席の減少 きちんとした言葉遣いや挨拶などの礼儀指導、 端正な服装容儀、 規範意識の高揚、 ボランティア精神や環境保護の精神の涵養	③ 人間としての在り方・生き方の自覚を深める教育を実施する。	構成的グループエンカウンターやアサーション等を通して、人と人との接し方について理解し、人間関係づくりに役だったと考える生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C 生徒アンケート 7月 67.1% 2月 62.5%	特に一年次は人間関係のトラブルが多く、構成的グループエンカウンターやアサーションは有効であるが、今年は LH での位置づけが不明確となり時間確保が難しかった。次年度は学年との協議の中で計画的な位置付けをした継続的な取り組みに努める。
	④ 地域に根ざした学校づくりを推進するため、生徒会が中心になり奉仕活動を展開する。	近隣地域でのボランティア活動に参加する生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	D 生徒アンケート 7月 34.4% 2月 41.3%	年間3回のボランティア清掃を予定していたが、こどごとく荒天のため実施できなかった。また、降雪が少なく、地域の除雪に携わる機会もなかったため、残念な結果となった。来年度は予備日を含めて早期に計画を練り、生徒が主体となって活動ができるよう努めたい。
	⑤ 「学校版環境ISO」の取得校にふさわしいエコ活動を展開し、CO ₂ 排出の削減等を目指すとともに、環境保護の精神を培う。	エコ活動に積極的に取り組んだと答える生徒・教職員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C 7月アンケート 生徒70% 教職員95% 2月アンケート 生徒73% 教職員95%	生徒の意識は学年が進むごと、回を追うごとに向上している。個人的な取り組みが中心の紙のリサイクルやゴミの分別に比べ、集団での取り組みが中心となる節電にはさらなる努力が必要である。また、職員と生徒の意識の差が歴然としており、職員の一層の指導によって、生徒の意識と行動が改善するよう努める。
学校関係者評価委員会の評価	徹底した遅刻指導で約半減したのは十分評価できる。このような時間厳守の意識付けが社会性を身につけさせる。今後も指導願いたい。また、学校が魅力的ならば遅刻しないでおこうという意識が働く。学校がもりあがる取り組みをもっと行うべきだ。今の生徒は、人に思いや何かを伝える力を含めて、人と関わることが大変苦手である。ボランティア活動などを通じて地域社会の人たちとふれあう機会を創出してほしい。			
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善策	遅刻は半減したものの、まだまだ誇れる数値ではない。来年度以降も職員一丸となって指導を徹底するとともに、学校の一層の魅力づくりを推進したい。定期的にボランティア清掃に取り組みせたいが、その際は町内会との事前打ち合わせを十分に行って、住民の方々とのふれ合いの機会も大切にしたい。			
3 時代を生きぬく、積極的で活力のある人間の育成を図る。 部活動の活性化 生徒会活動の活性化 健やかでたくましい心と体の育成	① 1年生には全年度活動に参加するように促すなど、部活動を活性化させる。	部活動に加入している生徒で、実際に活動している生徒の割合が A 90%以上である B 85%以上である C 80%以上である D 80%未満である	A 生徒課生徒会の調査で 7月時 88.3%、 2月時 93.2%	入部した生徒の活動の割合は高いが、活動内容にはまだまだ充実させるべき点がある。また、全員入部制をとっている1年生の部活動では加入していない生徒が例年以上に多く見られる。個々の詳細な原因を分析し、部活動の活性化に努める。
	② 体力測定記録の更新を意識づけ、全学年を通した体力の向上を目指す。	男子で12分30秒以内、女子で7分45秒以内の記録を達成した生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	D 2月の体育科集計で 男子 62.8% 女子 57.2% 全体 59.4%	男子平均12分15秒、女子平均7分28秒で男女ともに平均では目標タイムは達成した。しかし、昨年度に比べ女子で基礎体力の低下（新体力テストでの全国偏差値3.1ポイント低下）が見られ、持久走についても中位層以下が増加している。今後は授業でのランニングの量を増やし底上げを図ることに努める。
	③ 生徒一人ひとりが充実感・達成感の得られる生徒会行事を企画・運営する。	行事終了後のアンケート調査で、充実感・達成感があったと答える生徒の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	B 各行事後に調査したアンケート結果の総合は83.1%であった。	特に辰巳祭ではPTA、同窓会、そして地域の方々の協力を得て、充実した文化祭となった。更に素晴らしい内容になるよう工夫を凝らすとともに、生徒会を中心として生徒全体の自主性が高まるよう努める。
学校関係者評価委員会の評価	本校の生徒は中学校まで周りから認められるという経験が少ない。ちょっとしたことでも「見られている」「見てくれている」と気づく機会を増やすことが、生徒が自己肯定感を高め、自分に対する自信につながる。部活動での上位入賞や上位大会への進出が多数あり喜ばしい。文化祭ではPTAや同窓会、地域の方々も一体となって取り組み、大変満足している。			
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善策	従来の春蘭賞（学校表彰）以外にも様々な取り組みの中で生徒を表彰する機会を設ける。部活動では特定の部が華々しい活躍を見せているが、学校全体ではまだ十分とは言えない。より活発な活動とするためにも顧問の積極的な関わりを推進する。PTA、同窓会、近隣大学そして地元町会との連携をより緊密に行い、地元の方々とのふれあいのすばらしさを実感させる。			
4 生徒・保護者・地域から信頼される、開かれた学校づくりに努める。 広報活動の充実 開かれた学校づくりの取り組みの推進	① 地域及び小中学校等との交流活動や各種の情報紙等による広報活動を通して、本校の教育活動への理解と協力を促進する。	各種の交流活動や広報活動を通して、学校の取り組みがよくわかると答える保護者の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	B 保護者アンケート 7月 88.9% 12月 85.1%	今年度はアートフェスティバルを初めとして、芸術コースの活動を中心に多くの交流活動・広報活動を行ってきた。その成果は様々な形で現れてきている。しかし、普通コースの活動や魅力については、はまだまだ周知されておらず、来年度以降もさらに広報活動を強化するよう努める。
	② ホームページの更新を定期的に行い、主な学校行事等も含め、本校の特色ある教育活動を発信する。	ホームページを通して学校の教育活動に関する情報の発信が適切に行われていると答える保護者の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C 保護者アンケート 7月 79.3%、 12月 73.8%	芸術コースのHPは頻繁に更新することができたが、その他のサイトは更新が滞った。また、全体の構成や内容を刷新できず、多くの方の関心を引くことができなかった。コースを再編した新たな辰巳丘高校のイメージをPRし、学校生活の生命感を伝えるためのトップページを初めとして、コンテンツ等に工夫を凝らし、魅力あるものに一新するよう努める。
学校関係者評価委員会の評価	学校の取り組みをもっと周知するために学校だよりなどは町会を通じて一ヶ月前には回覧したい。HPによる学校広報のタイミングが今ひとつ遅れている。こまめな更新が必要である。11月に実施されたアートフェスティバルはレベルも規模も大変なものだったが、まだまだ宣伝不足な面もあった。教育活動の外部への発信も計画的かつ効果的に行うべきである。			
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善策	HPのリニューアルを来年度早々行うとともに、年度当初から定期的な更新の時期を設定する。また、種々の取り組みについても余裕を持ってお知らせするように計画する。芸術コースの広報についてはある程度できているが、普通コースの特色や取り組みを広報する理解しやすいHPやパンフレットを作成し、プレゼンテーションの機会が多くなるようにしたい。			